

講義名	地域再生論			授業形態	
担当教員	岸野 啓一	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

全国的に少子高齢化と人口減少が進行する中、とりわけその影響を強く受ける地方部では地域の産業、経済をはじめ、日常生活やまちづくり、医療・福祉など様々な分野で深刻な問題が生じており、それに対応し自律的な地域経営を進めて地域の再生を図ることが喫緊の課題となっている。この科目では、地方部にフォーカスし、おもに都市・地域計画の観点から地域再生が必要となった背景や経緯を説明するとともに、いくつかのテーマに基づき、地域再生に関する問題点やその対応策などについて、具体例を交えながら論じる。地域再生はこれからの地方行政の主要課題であり公務員を目指す学生には履修を勧める。また、日常生活にも密接に関わる問題であり、公務員以外を目指す学生に対しても、仕事や日常生活において役立つ講義とした。

到達目標

- (1) 地域再生が必要となった背景や地域再生の取り組みに関する最新の諸事例の解説を通じ、地域再生とは何かを理解できるようにする。
- (2) その上で、地域再生の問題の捉え方やその基礎知識を学ぶ意義を理解し、その基本的な知識を習得できるようにする。
- (3) これらの成果に基づき、地域課題の機会を明確に表現できるようになる。
- (4) 地域再生の時事問題に対して自分の意見を述べることができるようになる。

提出課題

授業の内容に関する理解を深めるため、授業の内容に関するレポートを課す。レポートの提出方法などについては、その都度指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

基本的に、次の授業の際にレポートの講評や解説を行う。

評価の基準

前半・後半の2回に分けて、授業時間内に試験を実施する。試験の成績を70点、平常点（出席回数に基づく評価、レポート課題の出来映え）を30点、合計100点満点で評価する。出席については、毎回、キャンパスクロス等によって確認する。

履修にあたっての注意・助言他

1. 積み上げ型の授業であり、毎回出席することが重要である。
2. 試験では、各回の授業の内容から必ず1題以上の問題が出題される。こうしたことから毎回出席することが重要である。
3. 授業内容は日常生活に関連するものが多く、レポート課題などに取組みながらその内容をきちんと理解してもらいたい。そのために、授業への出席と積極的な参加とレポート作成などを通じて復習を強く奨励する。
4. 公務員を志望する学生には、履修することを推奨する。

教科書

.使用しない。

参考図書

その他

授業はパワーポイントを用いて行うが、プリント（パワーポイント資料、その他参考資料など）を配布する。参考文庫は、授業の中で紹介する。

授業計画

1. ガイダンス、地域再生とは
2. 地域再生の社会的背景（1）自動車利用の進展と生活の変化
3. 地域再生の社会的背景（2）都市への機能の集中と過疎化の進展
4. 地域再生に向けた取り組み
5. 高齢者の生活を支える公共交通の再生
6. 地域を支える高齢者の住まい・まちづくり
7. 過疎地域における小さな集落の形成
8. 前半部のまとめと確認テスト
9. 中心市街地の活性化
 10. オールドタウンの再生
 11. 観光振興による地域の再生
12. 先進自治体（1）兵庫県養父市、国家戦略特区
13. 先進自治体（2）北九州市「まち・ひと・しごと創生総合戦略
14. 先進自治体（3）久留米市、高度医療都市
15. 後半部のまとめと確認テスト

<各回の予習・復習について>

1. 予習：スラバスを熟読し、自分が興味を持った内容をまとめたうえで授業に出席すること（120分）
2. 予習：配布資料や講義ノートに基づき復習し、地域再生とは何かについて理解を深めること（120分）
3. 復習：自分の生活における車やバイクの使用について、自分自身の状況や家族の状況を整理し、使用する（または使用しない）理由を考察すること（120分）
4. 予習：配布資料や講義ノートに基づき復習し、地域再生の社会的背景について理解を深めること（120分）
5. 予習：「都市機能の大都市への集中」「地方における過疎化の進展」についてインターネットで検索し、その結果を自分なりに整理すること（120分）
6. 復習：配布資料や講義ノートに基づき復習し、地域再生の社会的背景について理解を深めること（120分）
7. 予習：配布資料や講義ノートに基づき復習し、地域再生に関する国の政策について理解を深めること（120分）
8. 復習：配布資料や講義ノートに基づき復習し、地域再生に関する国の政策について理解を深めること（120分）
9. 予習：「まち・ひと・しごと創生本部」について、インターネットを通じて政府のサイトにアクセスし、その内容を整理すること（120分）
10. 予習：コミュニティバスについてインターネットを通じて検索し、具体的なイメージを持つておくこと。自宅近くでコミュニティバスが運行されている地域があれば、試乗してみるのも良い（120分）
11. 復習：配布資料や講義ノートに基づき復習し、路線バスが無くなった背景や理由、コミュニティバスの必要性について理解を深めること（120分）
12. 予習：高齢化の家計を知るために、自己や家族の自治体の人口の総数と65歳以上、75歳以上の人口を調べ、65歳以上・75歳以上の人口の割合を計算してみる（120分）
13. 復習：配布資料や講義ノートに基づき復習し、高齢化の状況とそれを支える住まい・まちづくりについて理解を深めること（120分）
14. 予習：国土交通省のホームページにアクセスし、「小さな集落の形成」という政策について調べ、自分なりに整理すること（120分）
15. 復習：配布資料や講義ノートに基づき復習し、地域再生における小さな集落の形成や必要性について理解を深めること（120分）
16. 予習：第1回～第7回の配布資料に再度目を通し、全体の概要や授業中に特に重要であると説明した点について整理すること（120分）
17. 復習：前半部確認テストでの出来映えを振り返り、出来映えが良かったところは自信を持ち、悪かったところは再度復習すること（120分）
18. 予習：後半部のある程度の内容を事前に読み、事前の入りや賑わい、商業施設の状態などについて観察すること（120分）
19. 復習：配布資料や講義ノートに基づき復習し、中心市街地の活性化について理解を深めること（120分）
20. 予習：授業では大学近くの住宅団地「多聞台」を事例として説明するので、通学の行き帰りなどに多聞台に行き、まちの様子を観察すること。あるいは、住宅団地に住んでいる学生は自宅のある住宅団地の様子を観察すること（120分）
21. 復習：配布資料や講義ノートに基づき復習し、オールドタウンとは何か、その再生の方法等について理解を深めること（120分）
22. 予習：これまでに挙げたことのある観光地について、写真を改めて眺めるなどして、その観光地の賑わいの様子や特に興味を持った観光施設などについて自分なりに整理すること（120分）
23. 復習：配布資料や講義ノートに基づき復習し、観光地を持った地域再生について理解を深めること（120分）
24. 予習：兵庫県養父市とはどこにあるのか地図を見ながら調べること。また、インターネットを通じて「養父市」「特区」というキーワードで検索し、養父市における取り組みについて自分なりに調べておくこと（120分）
25. 復習：配布資料や講義ノートに基づき復習し、オールドタウンとは何か、その再生の方法等について理解を深めること（120分）
26. 予習：福岡県北九州市とはどこにあるのか地図を見ながら調べること。また、インターネットを通じて「北九州市」「まち・ひと・しごと創生」というキーワードで検索し、北九州市における取り組みについて自分なりに調べておくこと（120分）
27. 復習：配布資料や講義ノートに基づき復習し、まち・ひと・しごと創生という政策について理解を深めること（120分）
28. 予習：福岡県久留米市とはどこにあるのか地図を見ながら調べること。また、インターネットを通じて久留米市の総合計画について調べ、医療に関する取り組み内容について自分なりに理解しておくこと（120分）
29. 復習：配布資料や講義ノートに基づき復習し、久留米市における取り組みについて理解を深めること（120分）
30. 予習：手元に9回～第14回の配布資料に再度目を通し、個々のトピックスや授業中に重要であると説明した点について整理しておくこと（120分）
31. 復習：15回の授業内容について振り返り、「地域再生とは何か」と質問されたときに、自分なりに2～3分程度で説明できるように整理すること（120分）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、本学のディプロマ・ポリシーと次の点で関連する。
 「発達科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」のうち、「**イ**：主体的に学び、へたを伸ばす」の目標を持った人材、
 「**知識を応用して課題を解決することができる。論理的思考力を持った人材**」
 「**創造力**、新しい視点と豊かな発想を持った人材」
 「**経済学部** 経済学部の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力」のうち、
 世の中の動きを理解して、経済問題を中心に現代社会の諸問題に解決策を提案することができる。
 経済学を基盤として、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
 国や地方自治体との業務において授業に関連する内容にかかわった経験がある。実務を通じて得た知見などを授業で伝えることにより、授業内容に対する理解を深めたい。

備考